



「もんじゅ」のロゴマーク
智慧の象徴の文殊菩薩が乗って居られる
「獅子」をイメージしたもの

本格的な解体撤去を開始

「ふげん」解体の知見も活用

「もんじゅ」では、今年度より廃止措置計画の第2段階へ移行し、現場での本格的な解体撤去が始まりました。第2段階の主要作業の一つである「水・蒸気系等発電設備の解体撤去」においては、廃止措置で先行している「ふげん」でのリスクアセスメント等の知見も活用しながら準備を行い、安全を最優先に解体撤去を進めています。

水・蒸気系等発電設備の解体撤去

事前のリスクアセスメントを実施

水・蒸気系等発電設備の解体撤去は、資機材や要員の確保、労働安全を念頭においた作業手順の確認などの事前準備が整ったことから、7月3日に開始しました。

作業場所であるタービン建物に資機材を搬入し、作業エリアの養生、足場の設置等、作業環境が整った区画から順次、保温材等の取外しを行い、主な解体対象機器のうち給水加熱器(発電効率向上のための予熱装置)の切断等を実施しています。

今回の作業着手にあたっては、事前にリスクアセスメントを実施し、作業に潜む危険性の特定を行い、リスクの見積り、リスク低減措置を検討し、その結果に基づいて適切な労働災害防止対策を施しました。

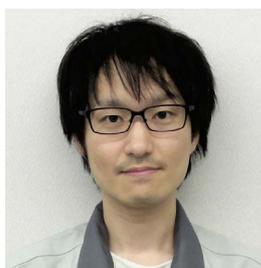
「ふげん」との人材交流で知見を共有

今回は過去の「もんじゅ」での作業経験に基づく対策に加え、廃止措置で先行するふげんの知見を取り入れるべく、「もんじゅ」職員を「ふげん」解体作業に従事させる人材交流を行い、知見・経験を習得した職員を「もんじゅ」解体作業担当者に配置しました。

「もんじゅ」の解体撤去におけるリスクアセスメントにおいて、「ふげん」の解体撤去中に作業員が切断工具の取扱いを誤り負傷した事例などを参考に、「もんじゅ」でも「ふげん」と同様の切断工具を使用することを踏まえて解体撤去時のリスクを抽出し、作業員への事例教育や適切な保護具の配備等の対策を講じました。

解体撤去では、作業の進捗に伴い現場環境が変化し、それに応じた現場安

この作業に携わる職員



高速増殖原型炉もんじゅ
廃止措置部 技術実証課
水井 一彦
(出身/福井県敦賀市)

2013年に入社し、「もんじゅ」の保守管理業務及び廃止措置検討業務、「ふげん」の解体工事の管理業務従事を経て、本年4月から新設した技術実証課に配属となりました。

本年7月から着手した「水・蒸気系等発電設備の解体撤去」の作業管理を担当しています。「ふげん」で従事した業務の経験を活かし、「もんじゅ」の解体撤去の更なる改善に努めます。「もんじゅ」初となる解体撤去を安全かつ確実に実施し、地域の皆様から一層の信頼を得られるよう頑張っております。

全、労働安全上の管理が必要となるため、リスクアセスメントの結果を踏まえた対策の措置状況及び追加の必要性について、原子力機構と請負会社とが現場立会のもと確認しています。

また、日々の作業では作業前に関係者でミーティングを行い、作業責任者を中心としたその日の作業の範囲、段取り、分担、安全衛生のポイント等を話し合い、安全かつ確実に作業を進めています。



給水加熱器作業エリアの養生、足場を設置



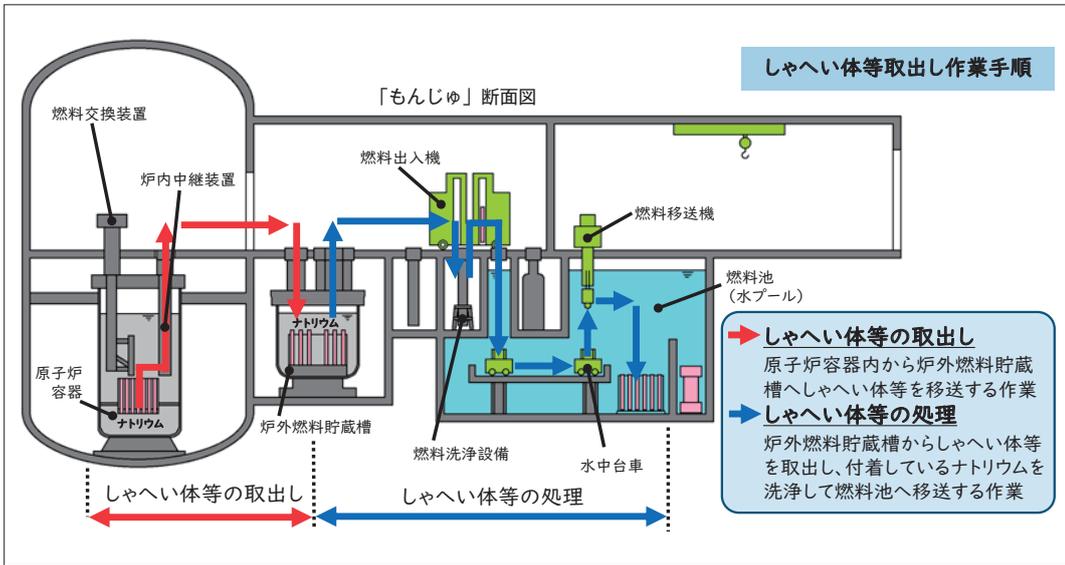
給水加熱器周辺の配管切断の様子



作業前ミーティングの様子



防火対策施工後の立会確認の様子



しゃへい体等取出し作業

「もんじゅ」廃止措置計画の第2段階の主要作業である「しゃへい体等取出し作業」は、将来実施する原子炉容器の解体撤去を安全に

進めるため、2026年度末までの4年間で原子炉内の全てのしゃへい体等を燃料池(水プール)に取り出す計画です。

今年度は、まず原子炉内の595体のしゃへい体等のうち202体を炉外燃料貯蔵槽へ取り出すことを計画し、機器の動作や作業体制に問題がないことを確認の上、6月2日から開始しました。作業は順調に進捗し、7月4日までに計画どおり202体の取出しを終えました。その後、機器の後片付け等も完了し、現在は炉外燃料貯蔵槽のしゃへい体等を燃料池に移送する準備が整い次第、作業を開始する予定です。今後、安全を最優先の一つひとつの作業を着実に進めていき、「しゃへい体等取出し作業」の完了に向けて取り組んでまいります。